

ひと
にな
る
か
ら
だ

まほろば主人



ドラマ『天才を育てた女房』より



TVドラマ

「天才を育てた女房」

この2月、奈良の岡潔先生のご長男 熙哉様から、「父のTVドラマが放映されます」と、わざわざお手紙を戴いた。その封書には、1960年の皇居での文化勲章授与式の写真と掲載記事が同封されていた。

主役が天海祐希さん、奥様役で出られるらしい。夫役（岡先生）は佐々木蔵之介さん。申し訳ないが、「これは、ミスキャストでは？ 無理、無理……」と思ってしまう、半ばがっかりしていた。



ドラマ『天才を育てた女房』より



ところが豈^{あにはか}図^らんや、放映されてみると、先入観が覆されて、それこそお見事と手放しするほどだった。控えめながら主張する所は主張する、芯の有る、何と
 いうか、いじらしくも、しおらしい「みっちゃん」をタイトル通り演じられていた。

「そうなんよー…」
 「…どうしたん」
 こんな語調の奈良井かなあ、懐かしくも

耳に心地良くて、ついつい引き込まれてしまった。確か佐々木蔵之介さんは、京都洛中、酒蔵の跡取り息子だったはずで、天海さんも宝塚歌劇団のトップスター。上方の風土と関西弁の慣れと、自然に醸し出される雰囲気が無理のない演技で、浪花生まれの岡夫妻に馴染^{なじ}んで、しっくりいったのだろう。

波乱の半生

長きに亘^{わた}り、国内の大学では理解されず、職を失し帰郷して、なおも研究に没頭した。閃^{ひらめ}くと、途端^{みちばた}に道端^{みちばた}に座り込んで、延々と数式を書き出す。睡眠不足^{こゝろ}が嵩^こじて本当に精神病院に入院してしまわれた…。寝食を忘れるとは、こういうことを言うのだろう。世間の目を全く気にかけない、その狂気じみた求道の姿。極貧の中で一途に夫を信じて三人の子供を養いながら一家を支え続けるみちさん。先祖伝来の田畑を切り売りしながら、息子潔の留学・生活費を工面する父親寛治。遂に欧米の学界に認められて、初めてその論文の類稀^{たぐいまれ}な偉大さに気付く日本。ご夫婦の半生は急峻^{きん}を登るが如き険しい岩場であった。

青春時代の出会い

実は、この映画の後に、第二の先生が動き出す。

憂世慨^{うせがい}民、それは、凄まじかった。丁度、東大紛争のあった学生運動感んなりし頃、浅間山荘事件や、あの三島由紀夫割腹事件など騒然とした世情であった。

ひとになる
からだ。

返しも出来ていないこと
に慙愧の念を抱くのだ。

そんな世の中
だったからこそ、
岡先生は日本の
行く末・越し方を
案じて、東奔西走
し、憂国の青年を
集めて「昭和維
新」を興さんと訴
えて来られた。

今思えば、上京
しての18、9から
22歳までの多感
な4年間に、私が
集中してこの時
期の警咳けいがいに接し
たのだった。

先生は、逝ゆきし世の美しき日本の面影おもかげを、
こよなく愛し、国民を深く憂うれいておられた。

その常軌を逸した激しさのため、喀血して胃
を切り取ったのだった。学問のみならず、何

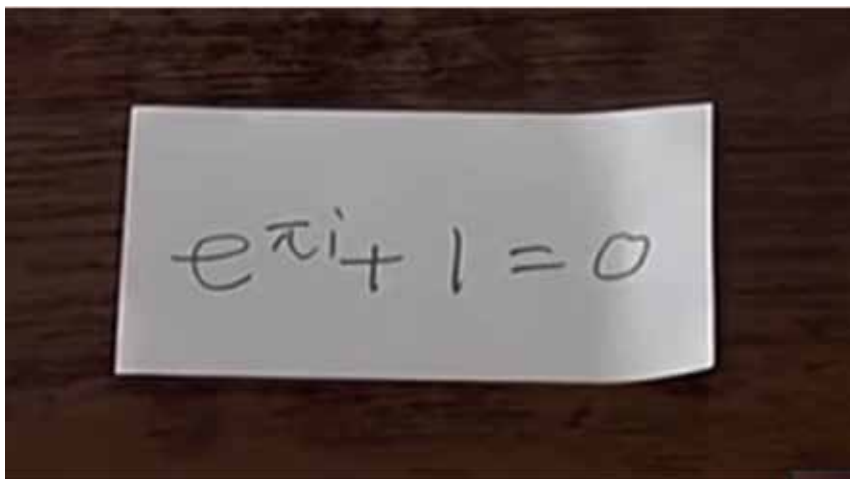
事においても常人ではなかった。そんな時代
を共にした事を幸せに思うと同時に、何の恩



「博士の愛した数式」

そんな折、15年ほど前に観
た、小川洋子さん原作『博士
の愛した数式』の映画を思い
出していた。不思議と、これ
も数学にまつわるストーリー
だった。

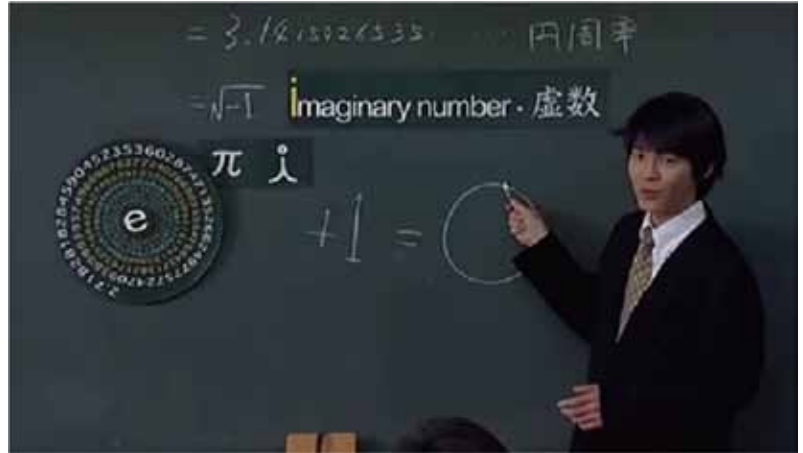
交通事故による脳の損傷で記憶が80分しか
持続しなくなってしまう元数学者「博士」
と、彼の新しい家政婦とその息子、愛称が「ル
ート」との心のふれあいを、美しい数式と共
に描かれた作品であった。その息子ルートも
成長し、同じ数学教師になって、博士の事々
を学生に教える。



映画『博士の愛した数式より』



レオンハルト・オイラー (Leonhard Euler, 1707-1783) は数学者・天文学者 (天体物理学者)。18世紀の数学の中心となり、続く19世紀の厳密化・抽象化時代の礎を築いた。



映画『博士の愛した数式より』

「 π は、円周率。
 i は-1の平方根 ($i = \sqrt{-1}$) で虚数。
 3.141592653589793238...と、宇宙の果ての果てまで続いて行く数 π と、決して正体を顕わさない imaginary number 虚数 i 。
 厄介なのは e 。この e を計算して行くとその値は、 $e = 2.71828 18284 59045 23536 02874 71352 \dots$ と何処までも何処までも果てしなく続く無理数。
 無限の宇宙から π が、 e の元に舞い降ります。そして、恥ずかしがり屋の i と握手する。彼らは身を寄せ合って、じつと息を潜めている。しかし、 e も π も i も決して繋がらない。
 でもね、独りの人間が、たった一つだけ足し算をすると、世界は変わります。矛盾するものが統一され、0。つまり無。無に抱き留められます。
 18世紀の最大の数学者レオンハルト・オイラーが編み出した数式。無関係にしか見えない数の間に、自然な繋がりを見えました。これはね、暗闇に光る一筋の美しい流星。ヒューーッ！これが、『博士の愛した数式』です」



博士は、美しい夜空の星々も、野山に咲く一輪の草花の美しさも、その説明が難しいように、この美しい数式を説明することは難しい。でもこの美しさは、誰でも必ず感じられる！
 豊かな直感を磨いて、一緒に努力して欲しい、と。

吉田武氏は自著「虚数の情緒」で、「西洋の一次元的な見方を数直線に譬えれば、東洋のそれは複素平面、大小を超越した虚数の世界にある、といえよう。『虚数の情緒』とは、この意味なのである。
 世界が西洋流の合理主義一色で染められようとしている今こそ、我々は本来持っていた多元的な見方を蘇らせ、雨の日

ひと
か
ら
だ
ひ
に
な
る

ウィリアム・ブレイク

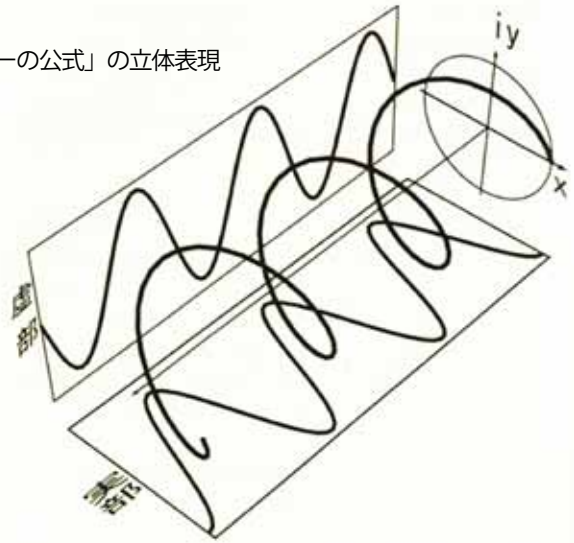
一時ひとときのうちに永遠を感じる

てのひらに無限を乗せ

一輪の野の花に 一つの世界を見

一つぶの砂に 一つの世界を見

「オイラーの公式」の立体表現



をたのしむ術を「対立と克服」ではなく「調和と包摂ほうせつ」を旨とする東洋的知性の存在を知らしめねばならない。」と、述べている。

数学好きのビートたけしの最大の愛読書が、この「虚数の情緒」だという。彼の作り出すアートの独特な感性と世界観も、それを知れば、一層深く理解出来る気がする。



「虚数の情緒」- 中学生からの全方位独
学法 - 吉田武著 東海大学出版部
1001P にも及ぶ大著。

仏教哲理も宇宙科学も

佛教学者の佐々木有一氏に、この本をご紹介させて戴いたら、それまでの難しい佛教哲理がたちまちの内に了解出来るという。禅の真空も浄土の妙有も兼備して、如来佛眼の複素数が生まれる。実数と虚数の止揚集合する場が、東洋的世界観ではないか、と提言される。簡単に言うと、目に見えるこの世と、目に見えないあの世は、実数と虚数が織りなす神秘の莊嚴世界で成り立っているというのだ。

量子力学も、場の量子論も、さらに最新の脳科学や宇宙科学、歴史・宗教・文化などのあらゆる科目分類が、この虚数を基盤にして発展していた。

オイラーの数式、 $e^{\pi+1} = 0$ 。

虚数なる万物が、一人と出会うことで、一切が無^{ゼロ}、0に帰す。

そして、その0は、無限でもあった。こんなロマンと奇跡が、あなたの中で起こり得る。

0に帰る心を「情緒」といい、その宇宙が「懐かしい」。

そして、それは、説明しようのない悠久な抒情、優しさと美しさで充ち満ちていた。

意識を通さないで分かること

ある方から、一冊の茶の雑誌を戴いた。そこに、初めて見る牧谿の『葦に翡翠、蓮に鶴鶴図』の二対の水墨画。

その刹那、「ハッ！」と息を呑んだ。じっと佇む鳥の心境、背景の静謐そのものになって、自信に満ち、歓びに溢れて、泰然として動かぬ、確かなる時が降りて来た。

岡先生は、「物事が分かるということとは、意識を通さないことが特徴である」と言われていた。そして、「疑いが、全く起らない。数学の発見はみなそうしてやって来た」と。「なるほど！このことを説かれていたのか」と、腑に落ちた。一分一厘でも何か心に引っ掛かりがあると、疑いの心が起るものだ。だが、それが全くない。晴れている。

作者が無私なればこそ、時を超えて響き合う何か、無私になろうとする意識さえ不要なのだ。

芸術の本質とは、この一点の妙にあるのだろう。



ひ
か
た
に
なる



『葦(あし)に翡翠(かわせみ)図』『蓮(はちす)に鶺鴒(せきれい)図』伝牧谿 南宋 MOA 美術館所蔵



ゼロになるからだ

国民が今一度、日本という底知れない情緒の大国であることを、岡先生の認知度と共に広がることを希^{ねが}って止まない。

心の文化立国、祖国日本の姿を、もう一度取り戻して行きたいと願う。

$e^{\pi i} + 1 = 0$ になる体^{からだ}。

「……………」

はじまりの朝の 静かな窓

ゼロになるからだ みたされてゆけ

海の彼方には もう探さない

輝くものは いつもここに

わたしのなかに 見つけられたから」

(宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」から)

『いつも何度でも』。作詞／寛和歌子 作曲／木村弓)